

県体育館整備事業に関するマーケットサウンディング 実施結果

1 対話の目的

県では、本県で開催予定の第 81 回国民スポーツ大会・第 26 回全国障害者スポーツ大会に向けて、延岡市に新たに整備する県体育館について、現在、実施設計を行っているところです。

実施設計を進める中で、民間事業者の皆様と意見を交換し、設計精度を高めるとともに、本事業へ参加しやすい公募条件等を整理していくため、「対話」によるマーケットサウンディング(意見招請)を実施しました。

2 調査の経過

- 実施要領の公表：令和 2 年 8 月 17 日(月曜日)
- 対話の実施：令和 2 年 9 月 24 日(木曜日)～9 月 25 日(金曜日)
- 実施結果の公表：令和 2 年 10 月 9 日(金曜日)

3 参加事業者

総合建設会社 4 社

4 対話内容

各項目の対話内容及び意見等は以下のとおり。

(1) 公募条件

- JV ペアリングの必要期間については、2 週間程度で十分とする意見がある一方で、3 週間程度必要とする意見もみられた。
- 入札参加要件の施工実績について、一般的な要件である施設規模が 5～7 割程度の同種工事（体育館建設）であれば、いずれの事業者も会社としての実績は問題ないとのことであった。
- 一方、体育館に関する施工実績を持つ配置技術者は不足しているとの意見が複数あり、配置技術者の施工実績要件については、「施工実績の施設用途を体育館に限定しない」、「現場代理人や係員としての従事工事も実績として認める」といった要件緩和を求める要望があった。

(2) 工期

- 働き方改革（2024 年度からの建設業における時間外規制等）を踏まえ、いずれの事業者も 4 週 8 休での工期設定を希望していた。

- 4週8休を想定した場合、現在の想定工期（約45か月）では不足するとの意見が複数みられた。
- サブアリーナ建設時の鉄骨調達については、現在の想定よりも時間を要する可能性があり、サブアリーナ完成が予定時期より遅れる場合もあるとの意見もあった。

(3) 施工計画

- ローリング計画（サブアリーナ建設～既存体育館解体～メインアリーナ建設まで）に関しては、いずれの事業者も現計画に大きな問題はないとの意見であった。
- 建設地が狭隘なため、仮設計画に留意が必要であり、状況次第では仮設計画変更によりコスト増となるリスクがあるとの意見があった。

(4) 工事費

- 積算期間については、2か月で十分とする意見が多数であったが、働き方改革やテレワークの推進等の影響から、2か月半を希望する意見もあった。
- 積算期間の短縮や見積精度を高めるため、参考内訳・特殊単価（見積単価）の公表を求める要望があった。
- コロナ禍により建設投資の減少傾向はみられるものの、作業員不足などの影響もあり、建設コスト・施工単価に大きな上がり下がりは見られないとの意見が複数あった。また、建設コストの今後の見通しについては、横ばいとの意見もあれば、上昇傾向がみられるとの意見もあった。

(5) 取組意欲

- いずれの事業者も高い取組意欲を持っているが、入札に当たって、配置技術者が手配できない場合や、事業費・工期が想定と合わなくなった場合は、参加を見合わせる可能性はあるとの意見がみられた。

(6) その他

- 屋根架構の木材調達について、品質の保証・歩留まり等の観点から発注者側での手配を希望する意見があったが、現在のところは施工者側での手配を予定している旨を伝えた。
- 鹿児島国体中止による影響に関する質問があったが、本事業の施設整備スケジュールに変更はない旨を説明した。